宮崎大学
University of Miyazaki
～世界を視野に 地域から始めよう～

# 報道発表

令和５年２月７日

各報道機関　　御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（１月分）の配信について

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元
宮崎大学企画総務部総務広報課
TEL：0985-58-7114　FAX：0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和５年１月分）

1. 外国人留学生向け企業見学バスツアーを実施
2. みやざき未来研究所 第７回「脱炭素で変わるエネルギー地図」を実施
3. 宮崎大学まちなかキャンパスでまつぼっくりツリー制作体験会を実施しました
4. チアダンス部「Daisy Girls」ラストステージ
5. 「JA 宮崎経済連グループセミナー」を開催しました
6. 市広報みやざき（2023 年 1 月号）で獣医学科 6 年の久永草太さんが紹介されました♪
7. 医学部看護学科が「健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）」最優秀賞を受賞
8. 清武キャンパス学生食堂がリニューアルオープン
9. 山室門川町長が大学生に講演
10. 経済同友会地域共創 WG との意見交換会を実施
11. みやざき未来研究所　第８回「笑い」を実施
12. 宮崎大学が主導する B-JET の高大連携事業「B-JET CAFE」が「日本-バングラデシュ外交関係樹立 50 周年事業」として認定
13. DX を学ぶ　第９回『XR の世界』を実施
14. 2022 年度演算増幅器設計コンテストで有村さんが優勝！
15. 1/21(土)19:30～「ブラタモリ「高千穂～神話の里・高千穂はどうできた？～」」に農学部竹下准教授が出演します
16. 修学支援事業の一環で学生向け 100 円カツカレー弁当を 500 食販売
17. 清武キャンパスにローソンサテライト宮崎大学医学部店がオープン
18. 令和４年度宮崎大学学生農学特別賞（地域貢献部門）の表彰式を実施

## 1.　外国人留学生向け企業見学バスツアーを実施

令和４年 12 月 20 日（月）、外国人留学生を対象とした「企業見学バスツアー（産業人材育成プラットフォーム主催）」を実施し、宮崎大学・宮崎国際大学・宮崎公立大学に在籍する外国人留学生１８名（１０カ国）が県内企業３社（道本食品株式会社、株式会社共立電機製作所、宮崎日機装株式会社）を訪問しました。

本ツアーは、宮崎大学学び学生支援機構地域人材部門が中心となって企画・運営して実施。当初予定していた 15 名の定員を超える申込があり、外国人留学生の関心の高さも伺えました。また、全ての見学先企業において、参加者から多数の質問が寄せられ、企業側に皆さんにとっても、多様な外国人留学生がいることを知っていただく良い機会になりました。さらに、移動のバスの中では、各参加者の自己紹介が行われたほか、日本での就職活動についてのクイズ大会を実施。終始和やかな雰囲気のなかでツアーが終了し、留学生同士の新しい繋がりを作っていました。

宮崎大学では、今後も産学官連携を強化しながら地域の国際化を牽引し、地域と産業の更なる活性化に貢献してまいります。

## 2.　みやざき未来研究所 第７回「脱炭素で変わるエネルギー地図」を実施

本講座は、少子高齢化や事業承継問題など、地域が抱える課題が多様化するとともに、地域において分野を超えたノウハウの共有・連携などの重要性が高まっていることを背景に、神奈川県理事（いのち・未来戦略担当）を務める宮崎県都城市出身の脇雅昭氏が講師・コーディネーターをつとめ、宮崎のさらなる活性化に向けて議論を深めていくことを目的としており、宮崎県や宮崎県工業会、宮崎県商工会議所連合会の後援を受けて実施するもので、学生のみならず一般の方も無料で受講することができます。

令和４年 12 月 23 日（金）に実施した第７回目は「脱炭素で変わるエネルギー地図」と題して本講座のコーディネーターである脇氏のほかに NHK 記者の西園興起氏を特別ゲストとして迎え、カーボンニュートラルについてわかりやすく解説いただきました。宮崎のこれからのエネルギーに関しても意見が上がり、参加者の活発な意見交換がなされました。

### 3.　宮崎大学まちなかキャンパスでまつぼっくりツリー制作体験会を実施しました

令和４年 12 月 24 日(土)、宮崎大学まちなかキャンパス（宮崎市若草通りアーケード内）においてまつぼっくりツリー制作体験会を実施しました。この体験会は毎月第４土曜日に宮崎市の一番街と若草通りで開催する「街市」に合わせて実施したもので 16 名の方にご参加いただきました。

体験会では、宮崎大学農学部附属の田野フィールドで作成したヒノキ丸太のスライスの上に、宮崎大学農学部附属の住吉フィールドで収穫したまつぼっくりを固定し、田野フィールドの演習林で収穫した、葉やドングリ、木の実などを飾り付けてクリスマスツリーを作成していただきました。参加者はそれぞれ工夫を凝らしながら個性あふれるクリスマスツリーの作成に夢中になっており、参加者によってはツリーのみならず、杉の葉を用いてクリスマスリースなどを作成していました。

宮崎大学では、今後も地域自治体や企業の皆様と密接に連携しながら、地域に必要とされる教育・研究および社会貢献を推し進めていきます。

### 4.　チアダンス部「Daisy Girls」ラストステージ

令和４年 12 月 25 日（日）、宮崎市民文化ホールにて、宮崎大学チアダンス部「Daisy Girls」の３年生ラストステージが行われました。

Daisy Girls は、音楽祭や大学祭などでも常にショーを披露して大学の各種イベントを盛り上げてきたほか、2022 年 11 月に開催された第 47 回社会人野球日本選手権１回戦(宮崎梅田学園-日本新薬)では、宮崎梅田学園の応援リーダーとしてアルプススタンドを沸かせるなど、学内外から愛される団体です。

３年生にとってラストステージとなった今回のショーの最後には、感謝の気持ちがこもった大きな拍手が沸き起こり、菊地未紗さん（工学部３年）は、「入学当初は新型コロナウイルスの影響を受けて何も活動できず、友達を作ることも難しい状況でしたが、チアが沢山の友達を作ってくれて、大学生活の生きがいの一つにもなりました」と感無量。有終の美を飾りました。

※2023.1.10(火)夜７時から UMK テレビ宮崎さんの「よかばん」で、今回の Daisy Girls ラストステージの特集が放送されました。

## 5.　「JA 宮崎経済連グループセミナー」を開催しました

令和 4 年 12 月 26 日（月）、宮崎大学創立 330 記念交流会館にて、「JA 宮崎経済連グループセミナー」（主催：宮崎大学農学部地域連携推進室）を開催しました。

このセミナーは JA 宮崎経済連グループが参加する企業説明会で、食と農の仕事に興味のある学生（県内）を対象に実施したものです。「みやだい農学部の日」に続く、農学部地域連携推進室による学生向け企画の第二弾となります。

初めに JA 宮崎経済連グループの概要や業界の情勢について全体で説明があったあと、各ブースに分かれて会社説明が行われました。セミナーには県内の大学生 30 名以上が参加。職場の雰囲気や研修制度、自社製品の強みなどについて、熱心に質問する姿が見られました。また宮崎大学の卒業生も企業側から参加し、就職相談に応じました。冬季休業のさなかでしたが、大変有意義な時間となりました。

## 6.　市広報みやざき（2023 年 1 月号）で獣医学科 6 年の久永草太さんが紹介されました♪

宮崎市の広報誌「市広報みやざき」（2023 年 1 月号）において、現代歌壇の最も有力な新人賞のひとつである、第 34 回歌壇賞（本阿弥書店主催）を受賞した久永草太さん（農学部獣医学科 6 年）が紹介されました。

久永さんは宮崎西高校時代に短歌をはじめ、短歌甲子園に出場するなどして、大学入学後も短歌の腕を磨いてきました。

## 7. 医学部看護学科が「健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）」最優秀賞を受賞

「第 11 回健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）」（主催：厚生労働省・スポーツ庁）において、看護学科 地域看護学領域が実施している取り組みが厚生労働大臣賞 最優秀賞に輝き、令和 5 年 1 月 5 日（木）に鮫島浩学長へ受賞の報告を行いました。

「健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）」は、母子の幸せで健康な暮らしを支援するための健康増進を目的とする優れた取り組みを行っている企業、団体、自治体を表彰するもので、今回の地域看護学領域の取り組みタイトルは「若者の生きる力を育む性（生）教育」。評価委員長の埼玉県立小児医療センター病院長の岡 明先生からは、「20 年にわたって、中・高校生を対象に同じ世代の大学生が、ピアサポートという観点で性（生）教育を実践してきたことを高く評価し、最優秀賞に選考しました」との講評をいただきました。

地域看護学領域の鶴田教授は「看護学科が設置された 2001 年から継続してきた活動がこのような形で評価していただいたことをとても嬉しく思います。これからも学生とともにこの活動を継続し、人生 100 年時代を生きる若者が、安心して自分の未来を語れる社会を実現できるよう精進したい」と抱負を語りました。活動を受賞した取り組みについては「スマート・ライフ・プロジェクト」のウェブサイトや厚生労働省関連の媒体・イベント等で閲覧できます。

## 8. 清武キャンパス学生食堂がリニューアルオープン

令和 5 年 1 月 10 日（火）、清武キャンパス学生食堂の全面改修工事が終了し、オープニングセレモニーを開催し、鮫島学長、高橋俊浩生活協同組合理事長（農学部畜産草地科学科准教授）をはじめ約 20 名が列席しました。

今回の改修工事は、2024 年度に開講 50 周年を迎える宮崎大学医学部記念事業の一環として実施されたものです。学生食堂がある医学部福利棟１階は１９７７年から食堂として運営されていて、２０１０年に一部改修工事をしていますが、全面改修をしたのは今回が初めてとなります。

オープニングセレモニーでは、旧宮崎医科大学 3 期生でもある片岡理事から「1976 年に私が入学した時は、食堂があるこの建物と講義棟のみだった。大学 2 年になった時にようやく食堂が稼働しましたが、学生と教職員が集う温かい空間でした」と過去を振り返りながら、「大学では、食堂や談話室などのコミュニケーションスペースは重要。まもなく 50 周年を迎え、卒業生として現役学生をしっかり支援していきたい」と述べられました。

セレモニー終了後は、誰よりも早く利用したいという学生が集まり、リニューアル記念で安く提供されている「炙りサーモン丼」などを、友人と楽しく食べていました。

今回の改修により、より使いやすい食堂になったほか、入口と出口を分けることで感染症対策が施されるなど、未来の医療を担う学生が、これまで以上に勉学・研究に専念できる環境が整いました。

**9. 山室門川町長が大学生に講演**

令和 5 年 1 月 11 日（水）、宮崎大学木花キャンパス内にある地域デザイン棟で「宮崎 TOP セミナー（門川町長編）」を開催しました。

本セミナーは 2017 年度に開始され、2022 年度からは、地域資源創成学部の学生が主体となり、「学生の学生による学生のためのセミナー」としてセミナーの企画・運営に挑戦しています。本年度 2 回目（通算 36 回目）となる今回は、山室浩二（やまむろ こうじ）門川町長が講師を務め、宮崎大学の学生・教職員約３０名が受講しました。

セミナー冒頭では、山室町長から、これまでの宮崎大学の貢献について謝辞が述べられ、その後、自己紹介を交えながら門川町の魅力について説明がなされるとともに、学生からの質問に対して丁寧に答えられていました。

ディスカッションでは、「ビー玉のまち、天然記念物のまち」としての新しい PR 方法や、「河川整備の際には、生態系調査などへの配慮も」といったことが参加学生から提案されるなど、活発な意見交換がなされました。

## 10. 経済同友会地域共創 WG との意見交換会を実施

令和 5 年 1 月 16 日（月）、公益社団法人経済同友会地域共創ワーキング・グループ 16 名（座長：リコージャパン スマート＆エネルギー事業部 事業戦略室長 大塚哲雄氏、経済同友会 事務局長・代表理事 岡野貞彦氏）が宮崎視察の一環として宮崎大学を訪問し、鮫島浩宮崎大学長をはじめとする関係者との関係者との意見交換を実施しました。

今回の懇談会は、経済同友会が 2015 年度より、事務局職員と会員所属企業の実務担当者で構成するワーキング・グループを組織し、全国の地方自治体を訪れ、地方版総合戦略の立案や実施、進捗管理などの取組について意見交換を行い、地方創生委員会でとりまとめを進めている次期まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた提言等を行うための活動の一環として企画されたものです。

まず、本学教員３名（林雅弘農学部教授、宇都卓也工学部准教授、永岡章工学部准教授）から研究紹介が行われ、続いて宮崎大学が重点的に取り組んでいる地域活性化に資する教育・人材育成プログラムや 2016 年度に設置した地域資源創成学部の成果などについて活発な意見交換が行われました。

宮崎大学では、今後も県内外の様々な団体との連携を大切にしながら、時代の潮流を捉え、地域に貢献できる大学であり続けることができるように常に新しいチャレンジを進めてまいります。

## 11. みやざき未来研究所　第８回「笑い」を実施

令和 4 年 5 月 27 日（金）から、対面形式とオンライン形式を交えたハイブリッド形式でミヤダイミライ塾「みやざき未来研究所」を 10 回シリーズで実施しています。本講座は、少子高齢化や事業承継問題など、地域が抱える課題が多様化するとともに、地域において分野を超えたノウハウの共有・連携などの重要性が高まっていることを背景に、神奈川県理事（いのち・未来戦略担当）を務める宮崎県都城市出身の脇

雅昭氏が講師・コーディネーターをつとめ、宮崎のさらなる活性化に向けて議論を深めていくことを目的としており、宮崎県や宮崎県工業会、宮崎県商工会議所連合会の後援を受けて実施するもので、学生のみならず一般の方も無料で受講することができます。

令和５年１月 16 日（月）に実施した第８回は「笑い」と題して本講座のコーディネーターである脇氏のほかに、芸人のマネージャーを経て、笑いとスポーツを掛け合わせた様々な企画を展開している吉本興業の佐伯幸一氏を特別ゲストとして迎えました。参加学生から大学と笑いの掛け合わせ企画の意見もあり、「笑い」で地域課題の解決を参加者で考える時間になりました。

また、宮崎市職員でグラフィックレコーダーでもある Aya Ogawa 氏が講義の要点をまとめたグラフィックレコードをその場で披露し、参加者の歓声が上がりました。

次回第９回は２月 10 日（金）18：30～20：00 に「宇宙」を予定しており、詳細は決まり次第ホームページ上でお知らせします。

## 12. 宮崎大学が主導する B-JET の高大連携事業「B-JET CAFE」が「日本-バングラデシュ外交関係樹立 50 周年事業」として認定

宮崎大学では、2017-2021 年に実施の産官学連携高度 ICT 人材導入事業「宮崎-バングラデシュ・モデル」における、JICA 技術協力プロジェクト「日本市場をターゲットとした ICT 人材育成プロジェクト（B-JET：Bangladesh-Japan ICT Engineers' Training Program)」において、渡日前日本語教育、留学・インターンシップによるバングラデシュの優秀な ICT 技術者の地域企業への就業を支援しています。2021 年には JICA の B-JET を承継して宮崎大学履修証明プログラム「外国人 ICT 技術者人材育成プログラム（B-JET Basic Course / Advanced Course)」を立ち上げ、新たに「宮崎ーバングラデシュ・スタイル」として国際・地域連携の人材育成事業を行っています。

今回は、これらの産学官連携の取り組みを地域の高校教育へ展開した、新しい高大連携教育事業『高大連携 ICT 活用相互学習プログラム「B-JET CAFE」』が、外務省が進める「日本-バングラデシュ外交関係樹立５０周年事業」として認定されました。

海外で実施する B-JET での渡日前日本語教育と、宮崎県内高校での英語教育は、いずれもアウトプット（日本語／英語の話者と直接、会話・交流する時間）の機会が少ないという同じ課題を抱えていました。そこで、日本語を学ぶバングラデシュの ICT 技術者である B-JET

研修生と外国語とその文化を学ぶ宮崎県立高千穂高校の生徒が、自分の住む地域について英語・日本語・ベンガル語等を用いてコミュニケーションを行い、互いの地域をそれぞれの外国語で紹介する動画を協働して製作することで、主体的なアウトプットの機会を提供し、併せて学びを深めることで双方の課題解決に役立てています。

B-JET 修了生の一部は宮崎に就業し、将来は高校生らの隣人や同僚、地域社会の仲間になる可能性から、本プログラムは 将来の宮崎における多文化共生の縮図を先取りしたものです。なお、これらの交流を通じて製作された動画は宮崎大学 B-JET 公式チャンネルで公開しています。https://www.youtube.com/channel/UCju7HEATBXa7mMg4nSkgvCg

**13. DX を学ぶ　第９回『XR の世界』を実施**

令和 4 年 5 月 24 日（火）から、対面形式とオンライン形式を交えたハイブリッド形式でミヤダイミライ塾「DX を学ぶ」を 10 回シリーズで実施しています。

本講座は、最近よく耳にする『DX（デジタルトランスフォーメーション）』について、株式会社デンサン取締役の橋口義史氏、営業一部部長の山本真輔氏、開発一部 SI 開発一課課長の廣嶋修一氏、総務部総務課担当副部長の佐竹義明氏、営業一部商品営業課の寺原沙知氏を講師に迎え、宮崎大学数理・データサイエンス部会の共催、宮崎県や宮崎県工業会、宮崎県商工会議所連合会の後援を受けて実施するもので、学生のみならず一般の方も無料で受講することができます。

第 9 回目は令和 5 年 1 月 17 日（火）に「XR の世界」と題して開催しました。今回は、近年急成長を見せる XR の分野についてお話しいただきました。XR に含まれる VR、AR、MR について仕組みから活用事例、また Metaverse や DX との関連性についてわかりやすく解説いただきました。今回の講座は地域デザイン棟会場と、オンライン形式を含め約 60 名の方に参加いただきました。

## 14. 2022 年度演算増幅器設計コンテストで有村さんが優勝！

令和 5 年 1 月 20 日（金）、東京工業大学において、一般社団法人応用科学学会が主催する演算増幅器設計コンテスト発表会及び表彰式が行われ、本学工学研究科修士過程 2 年の有村知将さんが第３部門（電源電圧変動除去比・同相除去比・直流利得・電源電圧部門）で 1 位となりました。

本コンテストは、電子回路の汎用能動素子である演算増幅器の設計や評価を通して、アナログ集積回路技術全般を習得し、実社会に通じるアナログ回路技術者を高等教育機関から輩出することを目的としています。

今年度は、全国各地の大学・工業高等専門学校から 74 名（14 機関）が参加し、入力された信号(音)の増幅度や消費電力、ノイズ耐性などが競われ、電子回路分野を代表する協賛企業の方も多数来場して、提出回路に関して専門的な議論が行われました。

## 15. 1/21(土)19:30～「ブラタモリ「高千穂～神話の里・高千穂はどうできた？～」」に農学部竹下准教授が出演します

NHK 総合テレビで全国放送されている日本の紀行・教養バラエティ番組である「ブラタモリ」(2023 年 1 月 21 日 19:30-20:00) において、本学農学部森林緑地環境科学科の竹下伸一准教授が出演します。

竹下准教授の研究分野は、主に農業水利学・水文気象学・水資源管理学。これまでも様々な地域で現地調査を行ってきましたが、特に宮崎県北西部に位置する高千穂郷・椎葉山地域における 1,800ha に及ぶ棚田と 500km に及ぶ山腹用水路や環境と密接に結びついた地域文化などの価値を学術的な視点から明らかにしてきました。今回は、高千穂峡などの景勝地をもつ神話の故郷である高千穂町が番組の舞台となっています。現在の高千穂の姿になるために重要な役割を果たした山腹用水路を主軸に竹下准教授が案内人の一人として、専門的見地から説明します。

高千穂町は、2015 年に世界農業遺産に認定された高千穂郷・椎葉山地域の一部です。宮崎大学では、世界農業遺産に認定される前から 5 町村（高千穂町、椎葉村、五ヶ瀬町、諸塚村、日之影町）について宮崎県と連携しながら調査・研究を実施してきており、2017 年 3 月には、「宮崎大学」、「世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会」および「宮崎県立高千穂高等学校」の三者間で連携協定を締結しました。

その後、世界農業遺産としての認定を受けた同地域の若い世代を対象としたプログラムを構築・実践することなど、教育・人材育成面での連携強化に加え、同地域が持つ資源の再評価・体系化などを学術的な視点で明らかにし、地域活性化につなげていくことを目指して、農学部や地域資源創成学部教員を中心に研究を進めており、同地域の価値を学術的に明らかにするとともに、出前講義の実施などを通して、若い世代が地域に自信と誇りを持てるように教育・人材育成面でも寄与していくこととしています。

**16. 修学支援事業の一環で学生向け 100 円カツカレー弁当を 500 食販売**

令和 5 年 1 月 25 日（水）、宮崎大学に在籍する学生を対象とした修学支援事業の一環として、100 円カツカレー弁当（宮崎ブランドポークカツカレー）500 食を販売しました。

本企画は、宮崎大学生活協同組合と連携して実施したもので、通常のお弁当代金から 100 円を差し引いた金額を本学が持つ修学支援基金等を財源として負担することで実現しました。

学生食堂で通常販売している「カツカレー」と違い、宮崎の豚肉ブランド「宮崎ブランドポーク」が使用されていて、学生さんたちは美味しそうに食べていました。2 月上旬には定期試験も始まり、これから体調管理に特に気を遣う季節となります。学生の皆さんにはしっかりした食事と睡眠をとっていただき、これからのテストシーズンを乗り切っていただきたいと思います。

## 17. 清武キャンパスにローソンサテライト宮崎大学医学部店がオープン

令和 5 年 1 月 25 日（水）、宮崎大学清武キャンパスの講義棟 1 階にローソンサテライト宮崎大学医学部店のオープニングセレモニーを行い、鮫島学長、一般財団法人清仁会丸野理事長をはじめ学内外からおよそ 20 名の方々が参列しました。

オープニングセレモニーでは、医学部副学部長の澤口教授から一般財団法人清仁会とローソン本社の方々へ謝辞が述べられ、「記念事業のひとつでもある医療人育成共創拠点づくりのためにこの講義棟内の一角をコンビニエンスストアとして改修しました。イートインスペースもあるので学生がここに集い、勉強や意見交換をしながら、合間にほっとひといきつけるオアシスのような場所になるといいと思う。これを機に大学キャンパスがより一層盛り上がっていけるような環境作りをしていきたい」と述べられました。

セレモニー終了後は、開店を心待ちにしていた学生が集まり、オープン記念で特別販売されていた福袋などを手に取り、買い物を楽しんでいました。

## 18. 令和４年度宮崎大学学生農学特別賞（地域貢献部門）の表彰式を実施

令和 5 年 1 月 27 日（金）、宮崎大学農学部では、地域の活性化に対し特に顕著な貢献を行った学生を表彰する農学特別賞（地域貢献部門）表彰式を行いました。

農学部では、これまでも県内自治体や企業をはじめとする関係団体の皆様の協力を得ながら、地域に密着した教育・研究を推進するとともに、地域から必要とされ、地域で活躍できる人材の育成を目指してきました。

今回は、2019～2021 年度の直近 3 年間で、地域社会と協働した教育研究あるいは地域貢献活動に関する成果により地域の活性化に対し特に顕著な貢献があった学生を対象に選考を行い、審査の結果、６名の学生が選ばれました。受賞された皆様おめでとうございます。今後より一層のご活躍を期待しています。